

学発番号: 学18-017
事業名: 臨床化学免疫血清研修会
日時: 平成30年7月31日(火)18:30~20:00
場所: 京都保健衛生専門学校 視聴覚教室
主題1: 『新規肝線維化マーカー オートタキシンについて』
講師1: 五十嵐 浩二 氏(東ソー株式会社 バイオサイエンス事業部)
参加数: 総数:17名(京臨技会員:13名)
報告者: 岡崎一幸(京都大学医学部附属病院検査部)

以下、講演内容など

肝線維化マーカーのオートタキシン(ATX)について、肝線維化や測定系、臨床評価について講義をしていただきました。肝線維化の評価法は肝生検がゴールドスタンダードですが、侵襲性が強く、サンプリングエラーや検鏡者によってもその評価が変わる恐れがあるそうです。

一般的な肝線維化マーカーは、線維化以外の要因でも変動するため、正しく評価することが難しく、Fibroscanなどは非侵襲的ではあるが、高価な機器のため検査できる施設が限られることや、炎症や高度肥満などでは正しく評価できないという問題点があるとのことでした。

ATXは肝線維化の初期を捉えることが出来るバイオマーカーであり、線維化ステージごとの濃度分布と弁別能でも有用性が示され、その他の線維化マーカーとの診断能の比較においても優れているとのデータを紹介して頂き、肝生検に代わる重要な検査について学ぶことが出来ました。